

第2学年 ESD（生活科）学習指導案

日時：平成29年6月20日（火） 3校時

場所：2年教室 授業者：相楽 佳代

1 単元名 「みんなでつかうまちのしせつ」

2 児童の実態

2学年の子どもたちは、生活科で「まちたんけん」に行ったり、いろいろな施設を見学したりする活動をとて楽しみにしている。今回見学する「岩瀬学校給食センター」「岩瀬公民館」「岩瀬図書館」についても、「毎日給食がトラックで運ばれてくる。」「公民館のお祭りで豚汁を食べた。」など、積極的に自分が知っていることや経験を話していた。特に図書館については、多くの児童が休日に訪れており、「読み聞かせの後に工作もできる。」「たくさん本を借りると賞品や賞状をもらえる。」など、たくさんの意見が出た。しかし、児童が考えていることは、自分自身とその施設に関することが主であり、そこで働く人々がおり、自分だけでなく多くの人々が利用する場所であるという意識があまりない。そのような児童が、「みんなでつかうまちのしせつ」の単元を通して、公共の意識を持ち、みんなが気持ちよく利用したり生活したりするマナーやルールについて考えられるようにしていきたい。

3 ESD の視点に立った学習指導について

（1）教材について

本単元は、学習指導要領「生活科」の内容構成の具体的な視点の「エ 公共の意識とマナー」に属する学習である。みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにすることを目指している。

単元の導入では、見学する施設について知っていることや質問したいことを話し合い、見学の計画を立てる。「岩瀬学校給食センター」「岩瀬公民館」「岩瀬図書館」の見学では、よく話を聞いたり、分かったことや初めて知ったことをメモに取る。疑問に思ったことはその場で質問をする。見学後には、分かったことや気づいたことを全体で共有するとともに、「なぜこのような施設があるのか。」「誰のために施設や物があるのか。」という視点で考え、それらがみんなのためにある公共の施設であることを理解し、そこで働く人々の工夫や、みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーについて考えることができるようにしていく。

（2）持続可能な社会づくりとの関連

施設の見学学習を通して、「給食の食器はみんなが使うものであるから自分も大切に使おう。」「図書館は大人も子供もみんなが利用するところだから静かにしよう。」などと児童が感じ取ることができれば、それは公共の意識の高まりにつながる。自分だけでなくみんなが使ったり利用したりするものを大切にしようという意識は、今後、児童が他人と関わりながら生活していく上で非常に大切なことである。そして、単元の最後に自ら今後の自分の行動を考えることは、見学後に「ここはみんなが使うトイレだから、きれいに使おう。」「自分も相手も気持ち良く過ごせるように、自分からあいさつしよう。」など他の場所でも自ら実践していこうとする行動力にもつながっていくと考える。「みんなのために」という思いを行動に移すことは、「一人一人が大切にされる」ことであり、これは持続可能な社会づくりの構成概念のうち、「IV公平性」（一人一人の良好な生活や健康が保障・維持・増進されること）に当たると考える。

また、単元を通して、見学した施設とどのように関わっていききたいか、自分なりの思いを持つことは、自分の行動に責任を持ち、自ら進んで行動しようとする気持ちの表れでもある。これは構成概念の「VI責任性」（一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動すること）に当たると考えている。

（3）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

<気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度>

・・・友達の話をよく聞いて、新しいことに気づいたり、気づいたことや分かったことを相手に伝えたりする力

- <さまざまな人や社会、自然などとのつながりに関心を持ち、尊重するとともに大切にしようとする態度>
- ・・・地域にはみんなのために働く人がいたり、施設や物があったりすることに気づき、それらをこれからも大切にしようとする力
- <よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度>
- ・・・みんなのために働く人や施設に感謝し、今後自分がどのように行動していけばよいか考える力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 今までの経験・知っていること・疑問・分かったこと・気づいたことなどを伝え合い、全員で共有しながら単元を進める。
- ② 3・4名のグループを作り、考えながら表現し、表現しながら考えることができるようにする。
- ③ 意図的な発問を繰り返すことを通して、見学した施設が公共の施設であることに気づき、児童が今後どのように行動したいか、自ら考えていけるようにする。

4 単元の目標

身近な公共施設を見学し、公共施設やそこにある公共物はみんなでつかうものであることや、それらを支えている人々がいることが分かり、それらを大切に使ったり、安全に気をつけて正しく利用したりすることができるようにする。

5 指導計画と評価規準（総時数5時間）

次	時	活 動 内 容	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1	見学する施設について知っていることを話し合い、見学の計画を立てる。	<u>自分が知っていることや利用した経験を進んで話している。</u> ＜交流と協力＞	<u>相手や場所に応じた適切な行動や安全な行動について考え、見学の計画を立てることができる。</u> ＜つながり＞	
2	2 3 4	給食センター・岩瀬公民館・岩瀬図書館の見学を行う。	興味をもってたんけんや見学を行い、よく話を聞いたり、進んで質問したりすることができる。	見学で分かったことや初めて知ったことをメモしたり、 <u>疑問に思ったことを質問したりすることができる。</u> ＜交流と協力＞	<u>施設にははたらく人々がいたり、いろいろな工夫があることに気づいている。</u> ＜つながり＞
3	5 本 時	見学学習を振り返り、見学して分かったことを話し合う。	見学してきた施設や物、人に関心を持ち、 <u>それらがだれのためにあるのか進んで考えている。</u> ＜つながり＞	<u>みんなのためにある公共の施設とどのように関わっていきたいか、自分なりの思いを持つことができる。</u> ＜主体的・計画的＞	<u>見学した施設は、みんなのためにある公共のものであり、みんなが気持ちよく利用したり生活したりするための工夫があることに気づいている。</u> ＜つながり＞

6 ねらい<第5時>

見学学習を振り返り、みんなで使う施設や物があることや、それを支えている人々がいることがわかり、これからの自分の行動について考えることができる。

7 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点* ESD の視点に立った留意点・評価<ESD で重視する能力・態度>
導入	1 本時のめあてを持つ。 それぞれの施設について分かったことをまとめる。 め 給食センター・公民館・図書館はだれのためにあるのか考えよう。	15	○見学してきた場所がどんな施設だったかクイズ形式で出題し、各施設ごとに児童の答えを板書したり、写真を貼ったりしていく。 * 3・4人のグループを作り、話し合いながら答えていけるようにする。全員が発言できるよう、グループの中で毎回違う児童に発表させるようにする。<交流と協力>
活動	2 見学してきた施設がだれのためにあるか考える。 (1) 給食センター - なぜみんなの家にはないような大きい機械や道具ばかりなのか。 - なぜ働く人は深く帽子をかぶったり、エプロンを場所ごとに付け替えたりしているのか。 (2) 公民館 - なぜ36年も前からずっとあるのか。 - ホール、調理室、視聴覚室、和室(茶室)、会議室など、なぜこんなにたくさんの部屋があるのか。 (3) 図書館 - なぜ56424冊もの本がおいてあるのか。 - なぜみんなが読めないような難しい本も置いてあるのか。 - なぜたくさん読むと賞品がもらえるのか。 ◎3つの施設は→ 自分だけでなくみんなのためにある	20	* 「なぜ大きい機械があるのかな。」「なぜこんなにたくさんの本があるのかな。」など、発問を繰り返し、これらが公共の施設であることに気づけるようにする。 <つながり> ○公共の施設に関係のある発言があった時には、色を変えて(黄色)板書していく。 ・<u>たくさんの人</u>が給食を食べる。 ・<u>みんなが気持ちよく過ごせる</u>ように。 ・長い間<u>みんな</u>が使ってきた場所。 ・<u>多くの人</u>が利用している。 ・<u>みんなが楽しめる</u>ようにしている。 ・<u>だれでも</u>使えるようにしている。 ・<u>使った人がうれしい気持ち</u>になるように考えてくれている。 ・見学した施設は、みんなのためにある公共のものであるということに気づいているか。 (発言・発表) <つながり>
振り返り	3 本時のまとめをする (1) みんなが気持ち良く利用することができるよう、わたしたちにできることは何か考える。 (2) 今日の授業や見学の感想を書く。 - これからはみんなが使っている給食の食器をきれいに使いたいです。 - これからは、みんなが使う図書館に行ったら、静かに過ごしたいです。	10	○自分ができることを思いついた児童に発表させる。その理由も発表させる。まず友達の意見を聞いて、なかなか思いつかない児童が自分の行動についても考えられるようにする。 * 今後、その施設とどう関わっていきたいかが分かる感想を書けるように「これから・・・」という文を入れて書くようにさせる。 <主体的・計画的> ・今後見学した施設とどのように関わっていきたいか、自分なりの思いを持つことができたか。 (発表・ワークシート) <主体的・計画的>

